

十二支のはじまり

大城利徳（1908・M41）字高志保

あぬ一、世ぬ中んかいやて一、くぬ動物ぬ名あ付き
一んでい、な一昔殿様がよ、ある場所んかい、あぬ
集まりんでいち、皆んかい話さ一ま集まいるく
とうぬ有たるば一て。

あんさ一い、「今日や集まいる日やぐとう、早く
行きわるやる」んでいちな一、な一牛え先頭やしが
よ、牛ぬ一番先歩ち行いたしがや一。うぬ鼠で
いしえ一牛見ちゃ一ま、「いえ一いえ一牛、待ちよ
一け一少ぐわ一私にん一一緒ん行ちゆさ」でいち。
な一鼠お牛ぬ耳ぬかい乗と一てい、な一うぬ
集まいる場所んかい行ちゆるば一て一。

あんさ一い、うぬ集まいる場所んかい行ぢやぐと
う、「トーヒャー今ね一着ちやしえ一」でいち、うぬ
鼠お牛ぬ耳から飛ん降りや一ま一番なと一る
ば一よ。あんし牛え二番。うんぐとう一し、其処んか
い順番しで一先来しんで一な一番お付きたぐと
う、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、
戌、亥、十二干支が有るでしょう。

あんさ一に、うぬ猫んでいしえ一や干支や無んし
え一や一。くれ一殿様の一て鼠んかい、「猫ん
けい合図し一よ一や一」んち、うぬ鼠んかい言ち
え一んりしが、うぬ鼠おな一猫と一仇やしえ
一や一、な一、うぬ鼠おな一猫んかい何りん言
らんで一るば。あんさ一い、猫あ一ちえ一、な一干支
んかい入って一無んば一て。

【共通語訳】

昔、殿様が干支に動物の名を付けるということにな
って、ある場所に皆集まることになった。

それで、牛は歩くのが遅いので、「今日は集まりの
日だから、早く行かなくちゃいけない」と、誰よりも
先に出て行ったようだ。ネズミはその様子を見て、「お
い、おい、牛よ、ちょっと待ってくれ、私も一緒に行
くから」と言い、牛の耳にピョンと乗って、一緒に行
ったわけさ。

そうして、その場所に来たら、「トーヒャー！やっ
と着いたぞ」と、ネズミは牛から降りたので、一番にな
ったわけだよ。それで、牛は二番。そのようにして、
先に来た順に番をつけていって、子、丑、寅、卯、辰、
巳、午、未、申、酉、戌、亥と、十二支が決まった。

それで、猫が干支に入っていないのはね。殿様は、ネ
ズミに「猫にも連絡しなさいよ」と言ったそうだが、
ネズミは猫と仲が悪かったから、連絡しなかったんだ。
それで、猫は十二支に入っていないんだって。